

本教材の特徴と基本的な指導手順

1. 本教材の特徴

(1) 1枚に1つのターゲットセンテンス

例えば、1つめの Seafood では、What seafood do you like?がターゲットセンテンスになっています。それぞれの絵にターゲットセンテンスが設定されていますので、教科書の内容に合わせて補充の活動として使うことができます。

(2) 1枚絵に4つのシーン

1枚の絵にシーンが4つあるので、話題を変えながら繰り返しターゲットセンテンスを使うことができます。授業の始めのスモール・トークでも活用することができます。真ん中の絵をクリックするとスクリプトなしの絵が拡大されて出てきます。スクリプトにとらわれず、自由にやり取りをしましょう。1時間で4つこなす必要はなく、分割して活用してみましょう。

(3) 音声

音声はスクリプト付きの絵でも拡大された絵でも、両方で再生することができます。再生ボタンをクリックすると場面ごとの音声流れます。この音を聞かせてもいいですし、先生がこれを聞いて読む練習をし、児童には先生が読んであげてもよろしいかと思います。

(4) スクリプトの揭示

絵の四隅にスクリプトを入れています。ここをクリックするとスクリプトが拡大しますので、これを使って文字のインプットを行うことができます。先生が読みながら文字を押さえ、文字と音の一致を図りましょう。ただ、文字はあくまでも補助的なものですので、無理に読ませる必要はありません。

(5) 青森にまつわる英語表現

青森を象徴するものをトピックに選んでいるため、中には英語としてなじみのないものもありますが、青森を紹介するときには強い味方になりますので、チャレンジしてみましょう。地域の実態に合わせ、他の身近な題材を取り上げておかまいません。

(6) 登場人物

実は、登場人物には名前をつけていません。必要に応じて、クラスで名前を付けてあげてください。親近感がわくと思います。クラスの新しい仲間として迎え入れてください。

2. 基本的な指導手順

それぞれの絵に指導例をつけていますので、これを参考にしてアレンジしてみましょう。

(1) スモール・トークでトピックを導入

児童とのやり取りを通して、トピックを導入しましょう。ウォームアップも兼ねていますので、クラス全体で英語を話す雰囲気作りもしましょう。トピックに関するネタを仕込んでおくと、さらに盛り上がります。

(2) 絵を使ってターゲットの表現や重要単語を導入

こども児童とのやり取りを通し、表現や単語の意味を押さえていきます。ただ英語だけでは難しいと判断した場合、適宜日本語で意味を教えてもかまいません。児童にあまり難しいという印象を持たせないようにしましょう。ここではまだ文字には入りません。

(3) 音声を使ってスクリプトを導入

まずは、スクリプトをしっかり聞かせます。耳で確認するということを心がけましょう。その後、教師のモデルに続いてリピートさせてみましょう。ここでもまだ文字には頼りません。

(4) スクリプトで文字と音を確認

ここで文字を導入します。教師がゆっくりスクリプトを読みますが、その際、読んでいる部分を指や指示棒で押さえるようにして、文字と音の一致を図ります。教師が読む場合は、読むスピードを児童の実態に合わせるように調整しましょう。